

それに引き続き討論が行われた。ここでは、発表された演題一つ一つに詳しく言及することはできないが、たとえば初日最初のセッションでは、ヨーロッパの古代・中世から一九世紀に至る精神医学の諸相が、ガレノス(V. Galenus)、ヒンゲンのヒルデガルト(S. Hildegard)、バラケルスス(H. Schott)、ブラッターからエスキロール(T. Hamanaka)、ゴネル(J. Pigeaud)などの代表的形姿を中心に描出され、さらに、精神症状に関する概念規定の歴史が分析された(G. Berris)。そこで見られたものは、西欧古典学の成果を踏まえた厳密な方法論、よく知られた思想家に関する新たな視点、ある精神医学者・思想家の持つ大きな影響力の分析、一次資料の文脈に即した精神医学的な症状概念の発生と変遷の追跡、ある概念が精神医学に対して持った意味、「精神症状」という概念そのものの機能などであり、このセッションだけでも、精神医学史研究の面白さが遺憾なく発揮されていた。

つぎのセッション以降も、中国や韓国の伝統医学における精神医学や、日本の精神医学史、精神医療の方法論や病院史などに関する興味深い発表が続き、それに加えて会場では、口演と同時にポスター発表もあり、こちらも東洋と西洋双方から、ポスターの特性を生かした演題が出されていた。

個人的に、二日間の日程を通じて本当に楽しむことができた、というのが実感である。これだけマテリアルが盛りだくさんであるにもかかわらず心地よい緊張感が持続したのは、人間精神とその障害の多様性を反映した多種多様なテーマが

つぎつぎと呈示されたためであり、そうした多様性が、学際的な視点から「過去に何が起こったのか」を知るといふ喜びをもたらしてくれたからだと思う。このようなシンポジウムが再び日本で開かれることを願うばかりである。

最後に、世紀の変わり目にあたってこうした意義深いシンポジウムを実現していただいた濱中先生と、名古屋市立大学精神科のスタッフの方々に深く感謝したい。

(岩手医科大学神経精神科 酒井 明夫)

例会記録

一月例会 平成十一年一月三十日(土)

順天堂大学医学部九号館八番教室

一、横浜と疱疹

中西 淳朗

一、金子準二―断種史上の人びと(その二)

岡田 靖雄

二月例会 平成十一年二月二十七日(土)

順天堂大学医学部二号館第一会議室

一、実体験に基づく心臓ならびに脳神経活動の光学的

神野耕太郎

計測機器開発史の研究

一、幕末の久留米藩医玉井忠田と著書傷寒論柯則について

秋葉 哲生・中西 淳朗

三月例会 休会

四月例会 平成十一年四月二十四日(土)

順天堂大学医学部九号館八番教室

一、「正骨範」から見た江戸後期の整骨療法 陶 惠寧
 一、日本医史学会略史 岡田 靖雄
 六月例会 平成十一年六月二十六日(土) 順天堂大学医学部九号館八番教室

一、黒船来航と蘭医たち 望月 洋子

一、ドイツ自然研究者および医師協会の一七五年(一)

—実証・精密科学化の十九世紀— 小原 正明

例会抄録

家紋からみた杉田玄白の遠祖

中西 淳朗

一九九七年は杉田玄白先生の一八〇年忌の年に当る。即ち暦が三巡した訳であるが、九七年は特に記念行事はなかった。演者はこの区切りの年から玄白研究をしようと考えた。

その皮切りにこのテーマを取り上げた。

杉田玄白の肖像画は早稲田大学蔵の石川大浪筆の作品が有名であるが、袴をきた玄白像を演者はみたことがない。従って杉田家の家紋は何かと問われても即答は出来なかった。

芝愛宕山下の栄閑院に玄白の墓を訪れ、家紋を確認すると「鶴ノ丸紋」であった。玄白の家系は武蔵国に縁深い間宮家

とつながっていると云われているので、横浜市磯子区杉田の妙法寺に間宮家墓地を訪れたところ、「隅立四ツ目結紋」であった。そこで『新訂・寛政重修諸家譜・家紋』篇で調査したところ、杉田家も間宮家も共に隅立四ツ目結、鶴ノ丸紋を用いることが判明した。

杉田家は玄白より四代前の忠元という人が森家より養子に入られ、この方の実家の主紋が「鶴ノ丸紋」であったと考えられる。(間宮家と同じ宇多源氏佐々木諸流に、主紋を「鶴ノ丸」とする森氏一族がある)従って、杉田家が玄白の祖父から医を業とするようになって、表立つ紋を「鶴ノ丸」に変更したと推測している。

一九七七年、「市民グラフ・ヨコハマ第二十一号」が発刊され、「系譜のナゾ・玄白と林蔵の因縁」という記事が掲載され、この中に杉田松夫氏(玄端の孫)所蔵の「杉田家系譜」が写真で発表された。それには次の如く書かれている。

宇多源氏本国武蔵間宮分脉杉田、紋四ツ目結鶴ノ丸、宇多源氏佐々木支族間宮新左衛門信冬後胤。

間宮主水佐(信安) 居武州久良岐郡杉田邑、仕北条氏綱氏康、属間宮豊前守信高之部下、於諸々戦場尽軍功。

間宮主水次郎(長安) 改杉田氏、母行方彈正佐衛門女、大永四年甲申月日武州久良岐郡杉田邑(生)。

右の系譜は、日本医史学雑誌第八巻第三・四号——杉田玄白一四〇年忌記念特集号——収載の「杉田玄白の家系」の前面にある「杉田家記」の記事より一部分詳しく、前出の記事